

インドネシア 地方分権化による学校運営の実態とその問題点に関する考察

平成 21 年入学

参加したフィールドスクール：インドネシアフィールドスクール

調査地：インドネシア共和国東ジャワ州マラン市

佐々木 明日香

キーワード：地方分権、教育改革、学校委員会

自分の研究テーマについて

今回の調査では自身の研究において重要なポイントとなる学校委員会（komite sekolah,以下 komite sekolah）について聞き取りをおこなった。Komite sekolah は、2002 年、国民教育大臣令第 44 号に基づき、すべての学校に設置時期が義務付けられた組織であり、地方分権の流れの中で行われた教育改革の一つである。

Komite sekolah は日本の PTA と同様、学校の関係組織なのだが、保護者と学校が協力しあい、問題があれば解決し、行事があれば協力するという、クラス単位、学年単位、また学校単位で活動する PTA とは様子がちがう。

今回の予備調査で筆者が得た情報によると、インドネシアの Komite sekolah 地域住民や財界、教育者どの参加者が加えられることから、地域とのつながりが強い第 3 者的性質をもちあわせた組織として存在しているといえる。

また、教師の異動についての権限やカリキュラムの編成についても権限をもっている。

しかしながら、私立学校と公立学校では komite sekolah がもつ権限は一樣ではない。私立校は学校法人がより大きな権限をもっているために、komite sekolah の役割は公立と比べると弱いところが多い。また、私立校の多くは komite のメンバーに地域住民が加わることが少ないかわりに komite sekolah を中心に地域社会に対して社会貢献を行い、地域とのつながりを保っているところが多いことがわかった。

宗教学校、私立学校、公立学校など異なる運営母体そして都市部と農村部など異なる背景を抱えるインドネシアにおいて、学校委員会の構成員、活動内容、運営方法がどうなっているのか、またその問題点や課題については今後の課題とする。



PAUD（子供の教育活動）の集会であいさつ

フィールドスクールで得られた知見について

フィールドスクール期間中には、ジャカルタの日本国大使館やJICA事務所で貴重な話を聞くことができた。実際に現地で働いている方々に話を聞き、直接質問できる機会があり、とても有意義な時間を過ごすことができた。

ホームステイでは、食事を含め、現地の人たちがどのような日常生活を送っているのか、自身で体験したことにより、彼らの文化についてより理解が深まった。また、違う研究関心をもつ院生仲間などのディスカッションはとても有意義で自分とは違う見方、発見を共有する機会をもてたことはとてもかったと思う。



村を散策



海岸を散歩

フィールドスクールで学んだことをどのように研究テーマに生かすか

今回、フィールドスクールで学んだ最大の点は、物事を見たときの様子を印象の鮮明なうちに書き留めておくことの大切さである。私たちの記憶はすぐに薄れ、時間の推移とともに大きく変わっていき、失われることが多いからである。

また、自身の研究地とフィールドスクール開催地は同じ国、同じ島に位置するにもかかわらず、文化、習慣、言語などあらゆる点で異なっていた。あらためて、インドネシアが多民族、多言語、多文化国家であることを強く感じた。今後、研究を進めていくうえで、様々な地域を念頭におき、考えていかなければいけないことを再確認した。



ホームステイ先の家族と